

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりが自分らしい生き方で社会に貢献できるよう、豊かな人間性と確かな学力が育つ学校をめざす。

- 1 建学の精神「報恩感謝」を大切にし、教育理念「人をつくる」ことに基づく教育を実践することにより、人間的な成長を実現し人格の形成をめざす。
- 2 生活・学習の両面において、きめ細かい指導を行い、自ら知識を深めて個性や能力を伸ばし、自立にむけて必要とされる基盤を育成する。
- 3 生徒の個性を開花させるため、学校行事や部活動への積極的参加を促し、集団として他者への思いやりをもって協働し、試行錯誤の中から問題の発見・解決できる力を育成する。

2 中期的目標

【1】建学の精神に基づく教育の実践を行い、私学としての独自性を発揮する。

(1) 私学の独自性

- ア. 建学の精神「報恩感謝」・教育理念「人をつくる」ことを教職員がよく理解し、それに基づいて教育を行う。
- イ. 入学式・卒業式・全体集会などの取り組みを通じて、建学の精神や教育理念について生徒の理解を深める。
- ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に基づき、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。

※教員の評価アンケートにおける「建学の精神の理解」（平成30年度 4.2）は平成30年度目標4.5を達成できなかった。

(2) 生徒のニーズに対応したコース制

- ア. 生徒の多様なニーズに対応し、英数・英数発展・6年一貫の3つのコース制を設ける。また、授業評価によりPDCAサイクルを確立させ教育活動を行う。
- イ. 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。
- ウ. 英数発展コースは、応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応える。
- エ. 6年一貫コースは、自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成する。

※生徒評価アンケートにおける「コース満足度」（平成30年度 4.1）は昨年度比+0.2ポイントと30年度目標値に近づいた。

(3) 進路指導

- ア. 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するための進路ガイダンスを行う。
- イ. 個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行う。

※生徒評価アンケートにおける「進路面接等の満足度」（平成30年度 3.7）は平成30年度目標より下降した。

【2】学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくりを行う。

(1) 教科指導

- ア. 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。
- イ. 授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行う。
- ウ. 基礎学力の向上をめざすため、早朝テスト・放課後学習・休暇中の講習を実施する。

※生徒・保護者の評価アンケートにおける「学力向上の意欲」（平成30年度 生徒4.1 保護者4.0）で、平成30年度目標値を達成した。

(2) 人権教育

- ア. 生徒一人ひとりが互いの個性を尊重し合う集団づくりを行う。その中で「心のバリアフリー」推進の動向をふまえ、障がいの有無にかかわらず、多様性を尊重する障害者理解を推進し、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して指導する。
- イ. いじめ等を未然に防ぐため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施するなど生徒との接点を密にする努力を行う。
- ウ. 学年毎にテーマを決め人権教育を行う。
- エ. 12月の人権週間には人権講演を実施する。

※生徒・保護者の評価アンケートにおける「学校のいじめの対応満足度」（平成30年度 生徒3.7 保護者3.8）は0.1ポイント上昇したが、平成30年度目標には届かなかった。

【3】基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて豊かな人格形成を行う。

(1) 生活指導

- ア. 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養うように指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。
- イ. 挨拶運動・シェアシート運動等を実施し、基本的なマナーの実践に努める。

※生徒・保護者の評価アンケートにおける「教員の規則を守らせる指導」（平成30年度 生徒4.3 保護者4.1）は、ほぼ平成30年度目標値に達した。

(2) 危機管理と情報公開

- 生徒の安全・安心を優先して危機管理に当たり、私学の有する公の性質と学校教育に果たす役割を考慮して情報を公開する。
- ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を日頃からもち、危機管理マニュアルを作成し安全・安心な学校をめざす。また、災害に備え備蓄品を整える。
 - イ. 情報モラル講演会などにより、スマートフォンなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。
 - ウ. 学校ホームページ等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。

※教員自己評価アンケートにおける「学校安全対策」（平成30年度 4.0）であり、昨年度より0.3ポイント下降し、平成30年度目標に届かなかった。

※保護者評価アンケートにおける「学校の情報公開」（平成30年度 保護者4.0）であり目標値ではあるが、更に上を目指したい。

(3) 学校行事や部活動

- ア. 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。
- イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。

※クラブ活動については4.1、行事が人間的に成長させているが4.3と毎年高評価で平成30年度目標を達成した。

(4) 課題を抱えている生徒への支援

- ア. 生徒が抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたいきめ細かい相談・指導を行う。
- イ. 保護者、ICP（臨床心理研究所）と連携し、生徒の問題解決に支援を行う。

※生徒評価アンケートにおける「個人面談等の満足度」（平成30年度 3.7）で、平成30年度目標に達しなかったが、4.0を目標にしたい。

【4】保護者・同窓会・後援会との連携と社会貢献

- ア. 保護者と協力しPTA活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会とも連携し、文化祭・体育会などの生徒会活動を支援する。
- イ. 復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。

※保護者評価アンケートにおける「PTA活動の満足度」（平成30年度 3.9）0.1ポイント下降し、平成30年度目標値を下回った。

※生徒評価アンケートにおける「生徒会活動の満足度」（平成30年度 4.3）であり、平成30年度までの維持ができた。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校協議会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [(平成30年度)平成30年12月実施]	学校協議会からの意見
評価項目：教育活動全般及び学校に対する全体的評価を行う 評価方法：各項目について、5段階評価で行う 5：大変そう思う 4：どちらかといえば思う 3：普通 2：あまり思わない 1：全く思わない	<input type="radio"/> 学校経営計画について
<input type="radio"/> 全体評価 ・「入学して良かったか」の設問に対し、生徒・保護者とも 4.3 と高評価であり、これからも	<input type="radio"/> 生徒・保護者による学校評価アンケート結果に対する外部評価

<p>良い評価を目指す。</p> <p>○学習指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員による授業の工夫や学力向上への取り組みは、ある程度評価されているが、生徒の授業に対する取り組みは、目標値を下回っている。教員は生徒が意欲的に学習できるよう、今後とも研鑽を続けたい。 <p>○生徒指導等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基本的生活習慣」の再確認と育成を行い、教員の自己評価は 4.4 と高い。また、生徒・保護者の評価も昨年同様高評価である。 ・「いじめの対応」については、それぞれの事象が背景・性格等一つ一つのケースが異なるため、教員の対応が試行錯誤の繰り返しになっている。教員自身の自己評価は 4.2 と昨年より 0.3 ポイント下降した。生徒・保護者から見た評価が 4.0 を下回っているのは、対応に満足度が足りないからである。今後、教員の対応研修を重ねる努力を行う。 ・「クラブ活動と多彩な行事」は「実行から学べ」の教育方針のもと、体験を通して学んだ知識を使いこなせる能力を身につけるために力を注いでいる。人間力の育成に重要な行事やクラブ活動及び人間関係の項目は、いずれも高評価である。 <p>○学校運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営について、教員による自己評価は概ね 3.8 で教育内容に比べ評価が低い、教員間の相互理解のもと、少子化に伴う私学経営の危機感を共有し、学校経営計画に沿って教育に専念するよう努力が必要である。 ・生徒指導・支援に関する評価では、教員の自己評価は高く、努力もしていると思う。しかし「いじめの対応」については、生徒・保護者の満足度は 4.0 を下回っている。これは、一人ひとりの事象や背景や性格などが異なるため同様の指導が困難なため起こる現象と考えられる。教員は研鑽を重ねてより良い指導ができるようにする。 ・教員研修・資質向上に関して、校内研修については人権教育・生徒理解など計画的に実施しているが、本年も外部研修や自己研鑽に参加した教員が他の教員に伝えて情報を共有することが上手くできていないのが現状である。校務で忙しい中ではあるが、外部研修の発表の時間を取る。 <p>【分析】</p> <p>学校評価の生徒全体の評価が 3.99、保護者全体の評価が 4.00、ほぼ 80%以上の方に高評価をつけて頂いているが昨年より保護者評価が 0.2 ポイント下がっている。また、教員の自己評価も 4.13 で 0.1 ポイント下がっている。それぞれ努力をしていると思われるが学校内では学校生活に悩みを抱える生徒が 20 年前と比較すると多くなっている。担任はクラスの生徒指導や教科指導、クラブなどの業務を行いながら、家庭訪問や家庭への連絡をしている繁多な状況である。ICP や生徒相談を利用しながら学年の協力を得ているものの。学校生活に悩みを抱える生徒の性格や原因も様々で対応も様々となり、中学校教員の業務は過労状態にあるといえる。しかし、今年も「授業への意欲的な取り組み」「いじめを未然に防ぐ取り組み」の評価が他に比べて低い。来年度の教育の質を高めるためには、評価の低い項目も改善の対象にしたい。</p> <p>学校目標</p> <p>目指す学校像として「一人ひとりが自分らしい生き方で社会に貢献できるよう、豊かな人間性と確かな学力が育つ学校をめざす」という掲題のもと 3 年間教育活動を行ってきたが、改善や進歩があった事項もみられるが、不十分な内容もみられる。来年度も周囲を見て行動できる心のやさしい、思いやりのある美しい心を持った生徒を育てたい。そういう心豊かな生徒を育てられるよう全職員で取り組んでいきたい。</p>	<p>○ 教員による自己評価集計結果報告に対する外部評価</p> <p>○ 結果</p>
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価
平成30年度

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 建学の精神に基づく教育の実践と私学としての独自性	(1) 私学の独自性	<p>ア. 職員研修などを通じて、建学の精神・教育理念などを理解・実践する。</p> <p>イ. 入学式・卒業式・全体集会などを通じて、建学の精神・教育理念について生徒に話し、理解を深める。</p> <p>ウ. 教育方針「個性の尊重」「実行から学べ」「明朗と自主」「礼儀と品性」に沿って、学校行事も含めあらゆる教育活動を通して、人格形成を図る。</p>	<p>ア. 私学であるため教員による建学の精神及び教育理念の理解及び実践が4.3である。</p> <p>イ. 諸式を通じて校長講話の中で建学の精神や教育理念等の内容をわかりやすく説明する。(平成30年度4.2)</p> <p>ウ. 生徒指導部の月間目標に教育方針の内容を取り入れ、生徒に啓発を行う。</p>	<p>ア. 建学の精神及び教育理念の理解及び実践が0.1ポイント下降し、目標値には届かなかったが評価は高く、来年度は目標値4.5に近づけた。 (○)</p> <p>イ. 生徒の教育理念等の内容理解が昨年より上昇し、目標値を超えた。 (◎)</p> <p>ウ. 教員の教育方針の理解は高評価であるが、生徒の理解が追いついていない。昨年より上昇したが、生徒の理解を促すよう努力する。 (○)</p>
	(2) 生徒のニーズに対応したコース制	<p>ア. 授業評価を検証し、改善点を見出し、生徒にとってより良い指導を行う。</p> <p>イ. 英数コースは、勉強はもとより部活動もしっかり取り組めるコース。心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図る。</p> <p>ウ. 英数発展コースは、夏期講習や3年の土曜日午後の授業で応用的な内容まで掘り下げた授業を展開し、何事も深く追求したいというニーズに応える。</p> <p>エ. 6年一貫コースは、総合的な学習の一貫である「自分プロジェクト」で自分の夢・目標を実現させる力を備え、これからの社会で活躍できる人材を育成する。</p>	<p>ア. 平成30年度より教員評価を行う。それぞれのコースの特徴を理解し、コースの取組に満足しているかの設問に対し、</p> <p>イ. (平成30年度 生徒4.0 保護者3.9)</p> <p>ウ. (平成30年度 生徒4.1 保護者4.5)</p> <p>エ. (平成30年度 生徒3.9 保護者4.0)</p> <p>全コースの平均 平成30年度 4.1である。</p>	<p>ア. コースの特徴と理解についての教員評価は3.9と低く、来年度は授業評価を検証し改善したい (△)</p> <p>イ. 英数コースの満足度は、今年も昨年同様であった。高評価であるが目標値にあと0.1ポイント上げるよう努力する。 (○)</p> <p>ウ. 英数発展コースは、生徒・保護者とも満足度は目標値を大きく上回っているため、これを維持したい。 (◎)</p> <p>エ. 生徒の評価が昨年より0.2ポイント上昇し、昨年より高評価を得た。社会で活躍できる人材の育成を目標に更なる努力をしたい。(○)</p>
	(3) 進路指導	<p>ア. 生徒が、より良い進路選択ができるよう、進路情報を提供するため、3年時2回の進路ガイダンスを行う。</p> <p>イ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、3年の1学期より希望調査をとり、進路相談や進路支援を行う。</p>	<p>ア. 生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンス(平成30年度4.5)を行う。</p> <p>イ. 個々の生徒に応じた目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行なっている</p> <p>30年度は4.3と0.5ポイント上昇し、目標値をクリアした。</p>	<p>ア. 進路情報の提供について、高評価を維持している。今後、より丁寧な進路指導を実現したい。 (◎)</p> <p>イ. 個々の生徒に応じた進路相談により目標値に達した。 (◎)</p>

<p>2 学習面において、きめ細かい指導を行い確かな学力を育成するとともに、人権を尊重する学校づくり</p>	<p>(1) 教科指導</p>	<p>ア. 各教科はシラバスに沿って指導するが、グループ学習を取り入れ「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善に取り組む。</p> <p>イ. 授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行う。</p> <p>ウ. 学力の向上をめざすため、早朝テスト・放課後学習・休暇中の講習を実施する。</p>	<p>ア. 教員によるシラバスに沿った指導は高評価であるが、グループ学習の取り入れについては進行中なので、まだ評価が低い、目標を 4.3 にする。(平成 30 年度 4.0)</p> <p>イ. 教員による授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業の展開の目標値を 4.5 にし、(平成 30 年度 4.1)生徒・保護者による授業は分かりやすいか。(平成 30 年度 生徒 4.0 保護者 3.8)との開きが大きい、生徒保護者の目標値を 4.2 以上に設定する。</p> <p>ウ. 教員による生徒の学力向上・学習の遅れている生徒への支援を個々の生徒の実態に合わせて行っている。(平成 30 年度 3.7)生徒・保護者による学校の学力向上への努力の数値が一致しているが(平成 30 年度 生徒 4.1 保護者 4.0)それぞれ 4.3 以上を目標としたい。生徒・保護者による生徒の学力向上への意欲が低く(平成 30 年度 生徒 3.8 保護者 3.6)4.0 を目標とする。</p>	<p>ア. 教員によるシラバスに沿った指導についてはポイントが 0.1 下がった。目標値に達するよう努力を重ねたい。(○)</p> <p>イ. 分かりやすい授業の展開について、教員評価は目標値に届いておらず、生徒評価・保護者評価は 4.2 を下回っている。生徒の授業理解を優先的にポイントの上昇を図る。(△)</p> <p>ウ. 教員評価の中で 4.0 を下回る評価が「個々の生徒の実態に合わせる支援」であった。また、生徒の学力向上への意欲が低いのは、昨年同様大きな課題である。目標値にむけて研修など通じ、更なる努力を行う。(△)</p>
	<p>(2) 人権教育</p>	<p>ア. 「心のバリアフリー」の観点から、障害者理解を深めつつ、人権感覚を持ち相手の身になって行動できるよう、日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を行う。</p> <p>イ. いじめ等を防ぐため各学年、日直面談を行い、学期ごとに「仲間づくりアンケート」を実施し、人権意識を育てる。</p> <p>ウ. 障がい者と外国人差別について(1年)、身分差別と平和学習(2年)、総まとめと進路について(3年)と学年毎にテーマを決め人権教育を行う。</p> <p>エ. 12月の人権週間には中学校行事として、人権講演を実施する。</p>	<p>ア. 教員は周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践しており(平成 30 年度 4.3)昨年より 0.2 ポイント下降したが高評価である。</p> <p>イ. 生徒・保護者による教員の「いじめ」の対応は適切か(平成 30 年度 生徒 3.7 保護者 3.8)と低い、目標は 4.0 以上と設定する。</p> <p>ウ. 教員は人権に係わる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。この項目については 0.3 ポイント下降した。(平成 30 年度 4.1)</p> <p>エ. 人権講演や道徳的な行事については(平成 30 年度 生徒 4.2 保護者 4.0)保護者の満足度も上昇し、現在の人権教育を進めたい。</p>	<p>ア. 教員は日々の学校生活すべての活動を通して人権教育を実践しており高評価である。今後高評価を維持する。(◎)</p> <p>イ. 「いじめ」の対応についての生徒・保護者の評価は低い、教員の更なる努力が必要である。(△)</p> <p>ウ. 本校における教員の人権意識は総合的に高いと感じられる。今後も引き続き、これを維持する。(◎)</p> <p>エ. 人権講演や道徳的な行事について、生徒評価は昨年同様非常に高い。保護者の理解も得られるよう努力する。(◎)</p>

<p>3</p> <p>基本的な生活習慣の確立を行うとともに、安全で安心な学校づくりと生徒への支援を行う。また、学校行事や部活動を通じて豊かな人格形成を行う。</p>	<p>(1) 生活指導</p> <p>(2) 危機管理と情報公開</p> <p>(3) 学校行事や部活動</p> <p>(4) 課題を抱えている生徒への支援</p>	<p>ア. 個別の問題行動の対応にとどまることなく、基本的な生活習慣と規律ある態度を養う指導を行い、集団生活における社会性を身につけさせる。</p> <p>イ. 重点を置いた指導として、生徒指導部が中心となり、挨拶運動・シェアザシート運動を実施する。</p> <p>ア. 教職員は生徒の安全が何よりも大切であるという認識を持ち、危機管理マニュアルを作成し、安全・安心な学校をめざす。また、災害に備えて備蓄品を整える。</p> <p>イ. 情報モラル講演会などにより、スマートフォンなどの情報機器の正しい使用法を習得させる。</p> <p>ウ. 学校ホームページの公開掲示板等で可能な範囲の教育活動や情報の公開を行う。</p> <p>ア. 社会性や協調性の育成のため、クラブ活動を奨励する。</p> <p>イ. 情操面を豊かに育てるため、宿泊研修、校外学習、耐寒オリエンテーリングなど多彩な行事を充実させる。</p> <p>ア. 生徒が抱えている問題に対して、きめ細かい相談・指導を行う。</p> <p>イ. 問題解決の部署としてICP（臨床心理研究所）の存在の明確化をするとともに、相談しやすい環境づくりに努める。</p>	<p>ア. 教員による、規則を守らせる指導・挨拶・礼儀を重んじる目標は 4.5 以上(平成 30 年度 4.4)であったが、生徒・保護者による教員の規則を守らせる指導（平成 30 年度 生徒 4.3 保護者 4.1)差 0.5 を縮めることを目標とする。</p> <p>イ. (平成 30 年度 生徒 3.7 保護者 3.9)と昨年と同ポイントだが評価は低い。生徒会を中心に積極的に挨拶運動を行い、学校月間目標により、さらに啓発を行う。</p> <p>ア. 安心・安全な学校を目指すには、危機管理マニュアルの整備(平成 30 年度 4.1)、緊急時の警察、消防との連携・訓練等の学校安全対策(平成 30 年度 4.0) はどちらも昨年より 0.3 ポイント下降し 4.5 以上の目標に届いていない。</p> <p>ウ. 情報公開については、満足度が低く、(平成 30 年度 生徒 4.0 保護者 4.0)4.2 以上を目指す。</p> <p>ア. 説明会やガイダンスなどで、クラブ活動の参加を奨励する。(平成 30 年度 生徒 4.1 保護者 3.9)</p> <p>イ. 多彩な行事の中で、協調性を持ちながら主体的に行動できる生徒を育てる。(平成 30 年度 生徒 4.3 保護者 4.3)</p> <p>ア. 日頃、担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっている。(平成 30 年度 4.1)</p> <p>イ. 生徒の個人面談等の満足度は低い。(平成 30 年度 生徒 3.7)両方とも 4.2 以上を目標とする。</p>	<p>ア. 教員・生徒・保護者とも 4.0 以上の高評価である。指導については現状を維持する。(◎)</p> <p>イ. 生徒・保護者の評価が低い、モラルに関わる大事な指導であるので、より啓発を行う。(△)</p> <p>ア. 安全・安心な学校を目指すため、訓練等の学校安全対策を実施しているが、評価が下降した。目標に近づけるよう努力する。(○)</p> <p>ウ. 評価は少しずつ高くなり、昨年同様保護者評価が 4.0 に達した。今後、学校ホームページでの教育活動やフェイスブックなどの情報公開を行う。(○)</p> <p>ア. クラブ活動については勝利至上主義にならないよう、情操面を育てる活動になるよう努力する。(○)</p> <p>イ. 行事についても毎年高評価である。来年もこれを維持する。(◎)</p> <p>ア. 担任は日直面談等きめ細かい相談・支援を行なっている。自己評価は昨年よりポイントが下降しているが評価は高く、これを維持する。(○)</p> <p>イ. 個人面談や ICP などは 生徒・保護者からは相談しやすい環境ではないらしい。環境改善に取り組む。(△)</p>
<p>4</p> <p>保護者・同窓会・後援会の連携と社会貢献</p>	<p>保護者・同窓会・後援会との連携をすすめるとともに、地域の社会活動に協力する。</p>	<p>ア. 保護者と協力し P T A 活動を活発にするとともに、保護者・同窓会・後援会との連携し、文化祭・体育会などの活動を支援する。</p> <p>イ. 復興支援やボランティア活動等で地域に協力する。</p>	<p>ア. 保護者から見る PTA 活動は(平成 30 年度 保護者 3.9)目標値より少し低いレベルである。</p> <p>イ. 生徒から見る生徒会活動は(平成 30 年度 生徒 4.3)と目標値 4.0 を超えた。</p>	<p>ア. 本校の PTA 活動は協力的で活発である。来年度もこれを維持する。(○)</p> <p>イ. 老人ホームの慰問や震災復興支援など生徒会を中心に続けて活動している成果があらわれ評価が高くなってきた。来年度もこれを維持する。(○)</p>